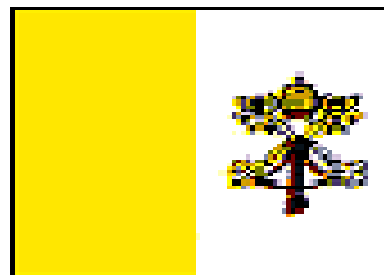


バチカン、国土0.44平方キロメートル（日本の皇居は約1.15平方キロメートル）、人口約820人という世界で最も小さい国です。



## バチカン市国の国旗

鍵はキリストによって約束された天国の保証を意味し、三重冠は法王の地上における三つの使命（祭職、教職、牧職）を表徴しています。バチカンの国旗は同時に法王旗でもあります。

バチカンの名は、もともとローマ市内のテベレ河右岸の地名で、そこにある聖ペトロ大聖堂、法王宮殿、法王庁などのすべてを含めて、現代におけるカトリック教会の総本部という意味で一般的に用いられています。正しくはバチカン市国と呼ばれ、現代世界のあらゆる国家に共通の制度や機構を指し、法王は、国家元首とみなされます。

ローマ法王は、全世界のカトリック教会の首長でもあり、法王庁も、単にバチカン市国の行政官庁ではなく、全世界のカトリック教徒の指導機関でもあります。そこで国連は、ローマ法王の国際的な精神的・道徳的影響力を重視し、法王の宗教的使命を表す使徒聖座という名からとられた、聖座（Holy See）を正式な国名として受け入れています。

バチカン市国は、ローマ法王の宗教的使命を他の国家の政治的影響力から自由に守るための国家であり、イタリアはこの点を正しく理解して、ローマ市内の一隅に、法王主権と治外法権を認めて、完全な独立国として取り扱っているのです。このようなバチカン市国の性格上、入国ビザなどはいりません。公用語はラテン語ですが、外交用にはフランス語、英語、通常業務にはイタリア語がよく使われます。バチカンの通貨はユーロで、造幣局、郵便局、テレビ局、美術館などもあります。

## バチカンと日本

1549年、聖フランシスコ・ザビエルによって日本にキリスト教が伝わり、やがてキリシタン大名が、1582年、ローマ法王に少年使節団を派遣し友好を表明しました。これが日本とバチカンの交流の始まりです。1613年には仙台の伊達政宗も支倉常長をローマに送り、法王パウロ5世と謁見しています。その後、キリスト教禁教令が出されると、3世紀にわたりバチカンとの交わりは絶たれますが、明治になり、憲法によって信教の自由が保証されると、1919年、初代駐日ローマ法王使節としてフマゾニ・ピオンディ大司教が派遣されました。1952年、日本との間に外交関係が樹立され、1966年以降、両国は大使を交換しています。現在、バチカンは、183の国、地域などと外交関係を有し、また国際連合（UN）や欧州連合（EU）、米州機構（OAS）など、一部の国、地域に限定された機関とも平和を築くために友好関係を深めています。

これまで、1981年2月にはヨハネ・パウロ二世法王が、2019年11月にはフランシスコ法王が、それぞれ日本を正式訪問しています。



聖ペテロ大聖堂クーポラ



サンピエトロ広場





システーナ礼拝堂の丸天井